

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 6 年度病虫害発生予察技術情報第 11 号について (送付)

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 11 号 (イチゴの炭疽病潜在感染状況) を発表したもので送付します。

県内のイチゴ親株ほ場 10 か所を調査した結果、すべてのほ場に炭疽病潜在感染株があるとともに、前年より平均感染株率が高いことを確認しました。本作での被害が少なくても、次作の被害を無くすために親株からの炭疽病防除を徹底しましょう。

技術情報第 11 号

1 対象作物名：イチゴ (親株)

2 病虫害名：炭疽病

3 これまでの発生状況

令和 6 年 11 月～12 月に県内 10 か所の親株から複葉を採取し、エタノール浸漬法による炭疽病の潜在感染株調査を行った。

潜在感染株確認ほ場率は過去 4 か年と同様 100%であり、潜在感染株率が前年より高かったのは 10 か所中 7 か所で、平均感染株率が前年より高かった。

- ・潜在感染株率 (10 か所平均) **64.5%** (前年 54.5%、過去 4 か年平均 42.2%)
- ・潜在感染株確認ほ場率 **100%** (前年 100%、過去 4 か年平均 100%)

4 防除上注意すべき事項

- (1) 発病後に治療できる薬剤はないことから、感染を防ぐため、3 月上旬の親株床から育苗終了時まで定期的な予防散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (2) 親株からの感染を防ぐため、採苗及びランナーの切り離しはできるだけ梅雨前に行い、速やかに親株を除去する。
- (3) 本病は主に雨媒伝染で感染が拡大する。ほ場で発病株を確認した場合は、発病株や周辺株を速やかに除去・処分し、発病の拡大防止に努める。
- (4) 降雨前後や摘葉後は、防除を徹底する。
- (5) 風雨による感染を防ぐため、雨よけ施設での採苗、育苗が望ましい。かん水はできるだけ点滴チューブなどを用いて株元に行う。
- (6) 育苗床の湿度が高いと発病しやすいため、かん水過多にならないようかん水量をこまめに調整するとともに苗の間隔を空け、風通しを良くする。
- (7) 浸冠水や土の跳ね返りによる感染を防ぐため、棚育苗が望ましい。
- (8) 窒素肥料を多用すると発病しやすいため、適正な肥培管理に努める。



写真1 炭疽病による葉の汚斑



写真2 炭疽病によるランナーの黒色病斑

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①



①

○X (旧Twitter) の本アカウント (福岡県農作物病虫害情報) へのアクセス

URL: https://x.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②



②